

2019A セメスター留学報告書

法学部 4年 池内潤

北京大学でのセメスター留学はとても楽しかったです。東大ではなかなか味わえない寮生活をかなり満喫でき、大学生活の中で一番楽しい学期でした。北京大学の学生とはあまり接点を作れなかったのが残念ですが、かなり多くの留学生と知り合いになれたので、どういう風に知り合い、どういった寮生活を送ったか、また他の留学生から聞いた情報で中国語学習やキャリア形成に役立つようなものを書いておきます。

【寮生活・旅行について】

僕の場合はルームメイトがとても社交的なドイツ人だったので、彼と食事と一緒に歩いていくだけで、他のたくさんの留学生の友達ができただけで非常に幸運でした。自分は通常より1週間遅れて北京に到着したため体験できませんでしたが、多くの学生は空港から大学への送迎バスの中である程度仲良くなって、ご飯の約束などをして友達をどんどん増やしていくみたいです。授業開始前の1~2週間でそういった食事に行ったり、初めに留学生オフィスが用意してくれる様々なイベントに参加して知り合いを増やしていきました。また中关新园には多くの人が座れる中庭のようなスペースがあるのですが、9月はまだ暑いので21時くらいから留学生が飲み物を片手に談笑しています。そこに知り合いなどをつてに参加して会話に入っていくと連鎖的に知り合いが増えていきます。序盤にこうして知り合いを増やしていくと、授業と一緒に受講したり、寮併設の図書館・カフェ（潰れてしまいましたが…）で勉強したり、昼・夜ご飯と一緒に食べるなどして徐々に仲良くなれると思います。かなり仲良くなってくると、誰かの部屋でピザパーティーしたり、大勢で部屋飲みしたり、ムービーナイトなどなど色々な企画が毎週のように出てきて楽しかったです。

9月はこうして仲良くなった人たちと北京の観光をしたり、天津に行ったり、怪しげなツアーに参加して万里の長城の上でキャンピングなどしました。国慶節は用事があって日本に一時帰国せざるを得ませんでした。友達は张家界や内モンゴルなどに行っている人が多かったです。9月末のこの時期くらいから、北京大のサークルの新歓が始まります。僕は卓球同好会に入ったのですが、いつでも卓球場を借りるパスを貰えただけで、北京大生との交流が全くできなかったのも、一つだけに入ったのは失敗でした。できれば文化系かチームスポーツを選択すると、現地の友達も増えるのではないかと思います。10月中旬には留学生室が主催する河南省への旅行に参加しました。費用は1000元超でしたが、たくさんの友達と行けたので良い選択でした。11月上旬には青島に1泊2日で観光、紅葉した崂山が非常に良かったです。12月の中旬に西安に2泊3日滞在、大唐不夜城という大通りが煌びやかで印象的でした。ただ西安は見るべき場所が多く、また観光スポットが散在していたので、2泊3日では全然足りませんでした。4~5日とっておくといいかと思えます。12月の

末からはテストの連続だったので、それ以降は自分も周りも期末対策一色でした。期末試験が終わった1月以降に寝台列車でハルピンに行き、雪まつりを見に行きました。足がとても冷えるので、事前に北京で足用のホッカイロをタオバオで購入しておくべきだと思います。

旅行に関しては、毎回大人数で行けるように日程調整していたのでメジャー所しか観光できませんでしたが、満足感はかなりありました。旅行に行くと毎回課題を終えるのがとても大変だったですし、月曜・金曜に授業があると長期の滞在ができないので、たくさん旅行に行きたい人は履修など色々考えた方がいいかもしれません。

【元培学院主催のイベントについて】

履修期間が始まる際に、元培学院との交換留学生に向けてオリエンテーションが行われました。そこではソウル大学や早稲田大学の学生もいて、自己紹介や履修についての質問会が主な内容でした。質問の中で多かったのは、対外汉语学院の授業も受けられるかとの質問でしたが、正式に受講するには10数万円の入学金を支払う必要があるそうです。ただ後述するように、対外汉语学院の受付に相談すれば、エクストラなコース（名前を失念しました）に関しては受講や聴講できるので、これで十分かと思います。

国慶節の翌週くらいに元培学院が主催する上海への修学旅行がありました。これは新幹線、豪華なホテルの宿泊が無料で、現地の交通費や食費も多すぎるくらいに出してくれるという太っ腹な旅行で、行かない選択肢はないと思います。ただ、これは4年在籍する留学生用のプログラムで、交換生には枠が余った5つくらいしかなく、先着順なのでメッセージがきたら即レスしましょう。上海蟹ラーメンが美味しかったのと、外灘の景色、ガラガラな上海ディズニーがよかったです。留学生向けの中国語の授業では良く目にする人たちなので、この場で知り合っておくと、その後の授業をより楽しく受けることができると思います。春学期は武漢に行くことが多かったそうですが、最近の新型コロナウイルスのこともあるので当分はないかもしれません。

その翌々週くらいに元培学院主催の合宿がありました。これも全額無料ですが、元培学院1年生のオリ合宿的なものに参加するというもので、結構アウェイ感がありました。ただ同室の中国人と仲良くなったり、北京大学の学生の空気感を体感できるので面白かったところもありました。参加するかしないかは自由だったみたいなので、時間があれば参加してもいいかもしれません。

【寮設備について】

キャンパスアジアで留学する場合は政府奨学金が貰えることが多いので、だいたい僕らと同じ中関新園というところの5号楼に部屋が割り当てられると思います。5号楼は政府奨学金を貰っている留学生が住んでいるところなので、建物の2階に図書館や勉強スペース、もう閉鎖してしまいましたがカフェがあったり、他の留学生より優遇されていた印象です。食事に関しては食堂や中关村/五道口あたりのレストランに行くことが多く、一人で食べる時

も外卖アプリで宅配を頼むことが多かったので全く自炊する必要がありませんでした。

北京は11月頃からかなり肌寒くなってきますが、全館暖房がかなり効いているので12月、1月も館内ではかなり薄着で過ごせました。

かなり快適でいい寮でしたが、一つ難点をあげるとすれば夏場、異常に蚊が多かったので強力な蚊除けを買っておくといいかと思います。最初は物干し台とか色々必要なものがあると思いますが、タオバオが一番安くて楽です。ちょっと最初は使うのが怖いよって人は中关村まで歩いてカルフルに行けば何でも揃ってます。

【授業について】

法学部では4年のAセメスターでの留学で、単位交換はできないということがわかっていたのでかなり幅広く履修をしました。履修した授業については、中国語の授業ばかりだと心理的負荷が大きそうだったので、英語の授業も三つほど取りました。英語の授業は留学生の友達も結構増えるので、三つは多いかもしれませんが、息抜き程度でも一つか二つ取ってみるのもいいと思います。Chinese Economyの教授が中国でも有名な経済学者らしく、特に評判が良かったです。英語も中国語もともに課題は多く感じました。英語の授業は大体毎週20~30ページほどのリーディングが必要で、中国語の授業の場合は授業によってばらつきはあるものの、授業の予習復習をしっかりやらないと授業についていけないこともあり、課題が少なめな授業を選びました。

履修方法については基本的にキャンパスアジアの学生は情報が少ないので他の留学生に色々聞くと良いかと思います。僕の場合は北京大学から全然履修に関するメールが送られてこなかったの、全学で来ている日本の他大学の学生や他国の留学生にpdfを貰うなどしていました。また留学生オフィス主催の履修のガイダンスにも元培学院との交換生だと入れないので、周りの留学生や前の学期からいる学生に聞くと分かりやすいと思います。

あまり知られていないことですが、对外汉语学院の授業に関しては実は一つだけ履修登録が可能です。聴講でよければ複数の授業を聞くこともできます。これは对外汉语学院の上級クラス向けに開講されている授業で、これについてはlanguage studentではないundergraduate studentもHSK6級以上の中国語レベルがあれば履修可能です。僕自身はこの時点でHSK6級は持っていませんでしたが、持っていると言い張ったら登録できました。当然ですが、他の中国語の授業よりも大分聞きやすく、中国語の向上に役立ったと思います。ただし、大学の自分のアカウントには成績が表示されなかったの、単位交換などには使えないと思います。

【その他お役立ち情報】

- 居住申請とかでパスポートを留学生オフィスに預けてしまう前に！

・ Yellow slip の申請をしましょう。高速鉄道では、チケットを発券する時、高鉄に乗る際にパスポートをチェックされるので、手元がない場合は Yellow Slip と呼ばれる証明書が必要なため、この発行をお願いする必要があります。これも留学生担当の人に聞けばやり方は分かります。

・ シェアサイクルアプリの登録を済ませましょう。パスポートの写真+パスポートの写真とともに自撮りした写真が要求されるので、パスポートが 2 週間も没収されると、一番使いやすいシェアサイクルアプリが使えず面倒です。

● X2 ビザだが一時出国したい場合の手続き

留学生担当の事務員に申し出て、必要書類が書かれた紙を貰い、それを揃えてビザ関係の部屋に入って渡す（長蛇の列がある所です）。翌日の朝、言われた通り人民大学近くの外国人ビザセンター的なところで手続きをすると、2 週間後くらいに新しいビザが貼られて戻ってきます。この際には日本でビザを申請した際に受け取った書類がまた必要になるので、ビザ関係の書類は全て北京に持って行くのが無難だと思います。

ただ注意すべき点は 2 週間パスポートが手元がないこと。前述のように旅行の予定がある場合は高速鉄道や宿でパスポートの提示が必要なので、注意しましょう。

● Language Partner について

中国語の向上のため、ほとんどの人が北京大学の学生と Language Partner を組んでいました。日本人だと中日交流協会というサークル的なところに入って探す人が多かったです。探すと言っても、サインアップすると自動的にメールでパートナーを割り当てられるシステムになっていて、僕はそこで割り当てられた法学部の 2 年の男子学生とパートナーを組みました。ただ僕の場合は相手の学生がとても忙しく、また日本語の習得にそこまで熱心でなかったこともあって、3・4 回一緒にご飯を食べただけで終わってしまいました。周囲にも同様にパートナーが忙しく、あまり会えてない人が多かったのですが、うまくやりくりして頻繁に北京大の学生と会っている留学生もいました。

例えば、3 人の Language Partner と組むことで週に 2・3 回は中国の学生と食事したり、一緒に勉強する時間を作っていた人や、Language Partner を探すイベントにたくさん出て自分と馬が合う中国の学生を見つけた人、などなど。9 月末の新歓前後にそういったイベントが結構あるので、中日交流協会以外にもパートナーを複数探しておくといいかもしれません。

● インターン

1 年もしくはそれ以上留学する人の中には北京でのインターンを探している人もいました。ただし現地企業でインターンしようとする、かなりのコミット度が要求されるみたいなので（週 3・全日など）学期中は難しいかもしれません。ただインターンをしていた人の

話を聞くと初日から顧客とのミーティングに参加するなど、色々やらせてもらえるみたいなので、長期休暇などに出来そうなものがあるか情報収集などはしてもいいかもしれません。

- RA(Research Assistant)

インターンと若干近いですが、北京大学の教授についてリサーチアシスタントをしていた人もいました。これは週2で1日5時間程度と言っていたので、結構キツイですが授業と両立可能かもしれません。ただ直接教授に聞かないと募集しているかどうか分かりませんし、ある程度の中国語レベルは求められるみたいなのでハードルは高めです。僕の友人は授業でRA募集を聞いてアプライしたそうです。

【最後に】

今回の留学はたくさんの素晴らしい友達に恵まれて非常に楽しい思い出を作ることができました。これから北京大学に留学する人も、日本ではあまり経験のできない寮生活を楽しむように祈っています。





